

和和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和5年3月 江別市立大麻泉小学校

1 本年度の重点目標

夢を育み、未来を切り拓く、子どもの育成

～認め合い、主体的に考え、よりよく行動する子ども～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価 【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない

分野	評価項目	自己評価（学校）		学校関係者 評価（運営委員）	
		達成 状況	改善の方策	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
経営方針の重点	<p>○教育目標の具現化を意識し、日常の教育活動を推進することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を引き出す教育活動の推進 ・活動と伸びの「見える化」 	△	<p>▶新型ウイルス感染症防止対策を継続しつつ、子供を「守る」ことを最優先し、「何が、どのようなスタイルであればできるのか」を考えながら教育活動を推進してきた。情勢により、感染拡大防止をふまえての計画や変更もあったと振り返っている。</p> <p>▶活動の「見える化」を意識し、取り組んできている。体力テストの歴代記録、読書貯金等の目標達成状況を掲示したりすることにより、子供の意欲を高めようと努めた。次年度も、制約の多い中でも「主体的に学ぶ意欲」を引き出す工夫について知恵を出し合い、教育活動を推進していきたい。</p>	△	△
	<p>○学級、学年の枠を超え、「協働体制」に基づくチームワークが発揮されたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員で全校児童を育てる 	△	<p>▶学校の感染症対策については、校内の学校保健委員会で検討し、それを全職員の共通行動ですすめてきた。スクールサポートスタッフの力も大きい。</p> <p>▶何事においても担任のみの指導ではなく複数の教職員で指導・支援を行い、教育効果を高めている。</p> <p>▶学校全体で統一した指導とし、9年間を通して目指す児童像を共有し、イズミズム（学習規律）やノート指導に関する実践交流の時間を設けるなどの工夫を凝らした。今後も継続したい。</p>		

	<p>【目指す児童像の実現に向けた取組】</p> <p>○自ら気持ちを込めた挨拶をするとともに、継続的に児童に対して指導することができたか。</p> <p>○イズミズム(学習規律)を身に付けさせる指導を行い、意欲をもって学習に取り組むよう指導することができたか。</p> <p>○児童が自分のよさを自覚できる場を意図的・計画的に設定し、自己肯定感を高め、相手を気遣うことができるような指導を重ねることができたか。</p> <p>○運動に親しむ機会を意図的・計画的に設定し、運動の楽しさを実感させることができたか。</p>	A	<p>▶子供自身の「よさの自覚」については、数値が高くなった設問である。感覚による指導ではなく、私たち教職員が備えなければならない視点やそ積極的生徒指導について学び、今後につなげていくことを確認した。</p> <p>▶運動能力については、取組が結果へとつながり、多くの種目で全国の平均値を上回る結果であった。取組を継続しつつ、次年度に向けて、弱点や補強ポイントについての「見える化」についても進めていきたい。</p>	A	A
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>○地域や学校の特性を生かし、創意と調和のとれた教育課程の編成・実施・評価を進めることができたか。</p>	B	<p>▶感染症拡大防止対策期間に伴い、どのようにすれば学習のねらいを達成できるのか、苦慮したところである。個の気づきから全教職員スタッフでの対話を通し、単元指導計画の見直し等により、計画的に進めてきた。</p> <p>▶学校行事についても規模を縮小したり、実施方法に大きな変更を加えたりと感染症対策と並行して、実施してきた。スタッフも大きく変わり、やってみて初めて見えてくることもあったため、今年度の実施方法や反省内容等を生かしながら、次年度構想へとつなげていきたい。</p> <p>▶新学習指導要領の完全実施に伴う60分授業は、定着しつつある。今年度の実践を振り返り、創意工夫を凝らした教育課程の編成に今後も努めていきたい。</p>	A	A

	○ICT を活用する等、わかる授業づくりに努め、確実な定着につなげることができたか。	▲	<p>▶ICT（大型電子黒板等）を活用した授業実践は、どの学年においても日常的に行われており、効果をあげている。GIGA スクール構想（児童一人一端末）に基づき、ICT を効果的に活用した授業のスタイルに変わってきた。機器の活用場面と鉛筆を使って書く場面とをしっかりと見極め、研鑽を積みみたい。</p> <p>▶授業の中で、終えられなかった学習や十分に理解できなかった学習をそのままにせず（やりっ放しにしない）、昼学習（給食準備時間）等でケアする取組の質を高めたい。</p>	▲	▲
	○児童の実態に沿った校内の研究課題を設定し、理論に基づく実践を積み重ね、教職員としての専門性向上に努めたか。	▲	<p>▶教職員が児童役となる模擬授業を行い、新しい学習指導要領に基づき、授業改善を行ってきた。</p> <p>▶研究内容やその取り組み方については、外部講師の方からご助言いただいたが、研修の内容をいかに個々の授業力向上につなげるかが継続中の課題といえる。</p>	▲	▲
	○いじめの未然防止▶早期発見▶早期対応に組織的に取り組むことができたか。また、児童会活動や学級活動において意図的・計画的な取組を推進できたか。	▲	<p>▶いじめの未然防止の取組については、2回の「いじめアンケート」をベースにしながら、教育相談の充実を図ってきた。教育相談週間を設定し、全児童との面談も行っている。「先生は見てくれている。」という安心感を児童に与えることができるように今後も学校全体での取組を継続したい。</p> <p>▶いじめ根絶に向けた児童会の取組も軌道に乗つつある。</p>	▲	▲
生徒指導	○児童交流を定期的に行い、『全職員で全校児童を育てる』意識を持ちながら組織的な指導を推進することができたか。	▲	▶「全校児童を全教職員で育てる」ということは学校長の経営方針に強く打ち出されているものであり、教職員の意識も高い。時間の確保に難しさもあるが、毎月の職員会議や後打ちで「児童交流」の機会を設定し、全職員で全校児童の状況（よさや課題）について共有するようにし、効果をあげている。	▲	▲

道徳教育	○自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を組織的に全教育活動の中ではぐくむことができたか。	B	<p>▶道徳科では、量的確保・質的転換を推し進めることができている。</p> <p>▶<u>やさしさいっぱい</u>という言葉を生きた教育活動の拠り所としているように、道徳教育は全教育活動の中で確実にやるべきものである。今後も学級経営や児童交流の中で、道徳教育について大切に扱っていききたい。この視点は、学校の教育目標の根幹をなすものであり、目標を達成させるための要になると考えている。より具体的な策を打ち出したい。</p>	A	A
特別活動	○様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや個性、多様な考えを認め合う風土を醸成することができたか。	B	<p>▶予定通りに学校行事や児童会活動を実施することができない状況が続き、改善すべき点が多いと感じる。互いのよさや個性、多様性、多様な考え方に触れる学びの機会や経験を今後も大切に、充実させたい。</p> <p>▶児童会活動やボランティア活動、異学年との交流、地域の方々との交流等、教育目標や重点と照らし、感染症対策を講じた中で実施できることを実施していききたい。</p>	A	A
健康安全指導	○自らの心身を鍛え、自他の生命を尊ぶ実践的態度を育てる健康・安全指導の充実に努めることができたか。	A	<p>▶今年度は、状況に合わせた感染症対策について柔軟な対応を心がけ、家庭への啓発を進めてきた。また、栄養教諭による「食育」、タイムリーな「保健便りの発行」と様々な活動を通して児童の健康に対する意識を高めることにも取り組んできた。</p> <p>▶今年度より児童引き渡し訓練を設定し、有事の際に混乱を招くことのないようにしている。また、今年度は、地域安全マップを充実させた。「子ども110番の家」も記載し、一目でわかるようにした。</p> <p>▶警察署や市役所、自治会等との合同点検を実施し、他機関との連携を図ることができた。今後も組織的な危機管理体制をより強固なものとするように努めたい。</p>	A	A

家庭地域との連携	○教育活動の実施に必要な人的または物的な体制を家庭や地域の協力を得ながら整え、連携及び協働を深めることができたか。	B	<p>▶今年度は、保護者や地域の方々の協力を得ることや、学校への来校が制限された。(個人懇談を実施。参観日3回実施。)また、保育園や幼稚園・中学校との連携についても<u>部活動体験・走り方教室等進めることができた。</u></p> <p>▶今後も感染拡大防止が続くと考えられるが、次年度も対策を講じた上で実施が可能な内容については、前向きに検討し、江別市の小中一貫教育実施に向けて準備を進めたい。</p>	A	A
感染症対策	○感染症対策を確実にを行い、差別や偏見につながらないように留意できたか。	A	<p>▶感染症予防対策ガイドラインをもとに保護者等の協力を得ながら感染拡大に向けて対策を講じることができた。</p> <p>▶今後も、実態に応じて感染症対策を徹底し、児童の安全・安心、命を守る行動につなげていきたい。</p>	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・全教育活動において、自分で考える姿を育てようとしている。
- ・自分のよさを自覚させるような教育活動が進められているのがよい。
- ・コロナ禍での工夫は学校だけで悩まず、様々な機関等と連携し、知恵を合わせて対応していくのがよい。



運営委員会の様子